

2023年5月31日

生活協同組合パルシステム東京様

ペシャワール会

2002年9月のご支援以来、長きに亘り当会のアフガニスタンにおける支援活動にご理解と多大なるご援助を賜りまして、ありがたく厚く御礼申し上げます。

ペシャワール会は1983年の結成以来、中村哲医師の活動を支援して参りました。おかげさまで2023年の秋には40周年を迎えます。

貴組合をはじめ多くの方々のご支援により、中村医師の逝去後も現地PMS（ピース・ジャパン・メディカル・サービス）の医療・灌漑・農業事業は、変わることなく続いています。

活動地であるアフガニスタン東部では、干ばつが進行する中、2003年に着手した総合的農村復興計画「緑の大地計画」により耕作地が着実に回復しています。2022年末の現地訪問により、これまでの安定灌漑地16,500haが、住民たちの手により23,800haに拡大していることが判明しました。これらの地で65万人を大きく上回る人々の生活が維持されています。

PMSの活動地では農地が豊かに甦り、人々の生活が可能となりましたが、アフガニスタン全土では干ばつが年々深刻化しており、国連機関をはじめ多くの国際団体が危機を訴えています。そうした中、PMS取水方式を普及できるよう、既存の堰・用水路の維持管理に加え、新たな堰・用水路の建設などにも取り組んでいます。

これからもペシャワール会は全力で現地を支えて参りますので、末永いご支援をよろしくお願い申し上げます。

お寄せいただきました組合員皆様からの平和カンパ1,375,179円はPMSの活動に有効に使わせていただきましたことをご報告しますとともに深く感謝申し上げます。

2022年度の現地プロジェクトは以下の通りです。

《2022年度プロジェクト報告》

1. 医療事業

2022年度も前年度に引き続き、アフガニスタン東部山岳地にあるPMSのダラエヌール診療所で、24時間対応できる診療体制を維持しています。1991年に開設されたこの診療所では、一般診療に加え母子健康保健向上のため女性職員による妊産婦の保健指導、ポリオ等のワクチン接種や結核治療も進められています。地域に根ざした診療活動は、住民からの信頼を集めています。

アフガニスタンの公営医療機関は2021年8月以降の経済制裁の影響により、医療システムが一時崩壊の危機に瀕し、今でも十分には機能を回復していません。そのような中、PMSのダラエヌール診療所には遠方からも患者が訪れ、地域医療の要となっています。（年間診療数約50,000人）

2. 灌漑事業

2022 年度は以下の事業を手がけました。堰や用水路などの建設に関しては、日本側の技術支援チームと連携をとりながら慎重に事業を進めています。

〈マルワリード I 堰・用水路改修〉

2019 年度から 4 年計画でマルワリード I 堰・用水路（2010 年完工）の改修工事を実施しています。2023 年秋に改修完工予定でしたが、2023 年 8 月に生じた洪水への対応を優先し、工期終了を一年延期し 2024 年秋完工を目指しています。

〈バルカシコート堰事業〉

中村医師の逝去後、初めて PMS の職員たちだけで建設したバルカシコートの堰・用水路が 2022 年 10 月に完工しました。この堰と用水路建設による灌漑面積は 230ha、3 カ村 12,000 人が安心して生活できるようになります。また、初めての試みとして、渓谷に 27 基の砂防堤を設置。豪雨による土石流を緩流化し、地下水を涵養させるなど一定の成果を上げています。

〈バラコット灌漑事業〉

PMS の活動地から離れた同州南部のコット郡で、スピンガル山脈を水源とするコット川と、その周辺の湧水から水を引く用水路の建設が始まりました。この地ではこの 20 年間で治安が悪化し、特に 2016 年の戦闘により家屋や農地が破壊され住民たちは避難を余儀なくされていました。治安が回復したことで人々が戻ってきたものの、荒地化し耕作が難しくなっていたため、住民たちの要請により灌漑事業を開始しました。2022 年 10 月着工、2023 年 9 月完工予定です。

3. 農業事業

マルワリード I 用水路最終地点のガンベリ沙漠の試験農場（約 230ha）で穀類や野菜、果樹を中心に様々な栽培と畜産を続けています。植樹は 127 万本を超え、大地を緑にし、荒々しい気候変動を少しでも和らげる役割も果たしています。

2022 年度は、かつて試みたものの定着しなかったサツマイモ栽培にも再挑戦しています。干ばつ下での救荒作物として今後期待されます。

現在アフガニスタンでは、これまでにない規模の干ばつが全土で進行しています。温暖化の影響による局地的豪雨や急速な雪解けにより、干ばつと洪水が繰り返し生じている状況の中で、中村哲医師（PMS）が長年にわたり確立した、年間を通して安定した水量を取水できる PMS 取水方式はより重要となってきました。

PMS の活動が地域の人々の助けとなるよう、2023 年度も引続き医療・灌漑用水路・農業事業を継続し、どこにも逃れようのない人々が安心して生活できるよう中村哲医師の意志と共に努力して参ります。